

1 テーマ

表現力を身に付け、活用することのできる児童の育成
 ～言葉の世界を広げる学習活動に重点をおいた指導を通して～

2 テーマについての基本的な考え

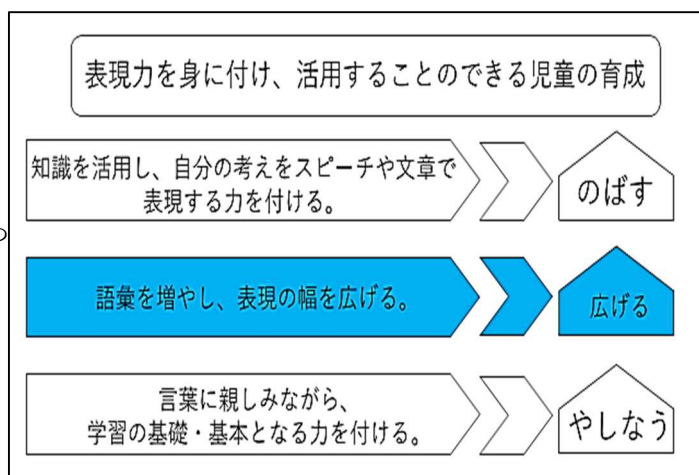
本校では、国語科の「知識・技能」の領域に重点を置き、言葉に親しみながら語彙を増やし、学習の基礎・基本となることばの力を養うことをテーマに努力点を推進してきた。

昨年度は、説明文の単元を通して新しい表現の型や文章の構成、いろいろな言葉の意味や活用方法を学ぶ学習を行ってきた。これは、表現の型などを段階的に学ぶことで、児童が言葉の広がりを実感するとともに、場に応じた表現を選択することができるようになることをねらっている。

実践の結果、伝える相手を明確にして、表現の型や構成を活用して読み手にとって分かりやすい文章にしよう意識する児童が多く見られた。これは、表現の型や構成を提示したことで、どのように表現すると相手に伝わるかが明確になり、児童も自信をもって表現しようとすることができたためだと考える。また、実践前後で自分の書いた作文を見比べる活動を取り入れたことで、表現の型や構成の有用性を感じ、今後の生活にも生かしていきたいという思いをもつことができた。しかし、表現の型や構成を使って書いている児童も、「うれしかった」「楽しかった」と特定の思いや様子を表す言葉ばかりが文中に見られたため、自分の思いや気持ちを適切に伝えることができなかつたと考える。これは、型や構成に当てはめて書くことが児童の課題となっていたことで、自分の思いや様子を伝えるのに適した分かりやすい言葉を使おうという意識が低かつたことが原因だと考える。また、型や構成に当てはめて書くことが児童にとっての課題となっていたため、実践の単元が終わると、学んだ表現の型や構成を他の場面や教科で活用して作文を書くことができず、自分の思いや考えが明確に伝えられない姿も多く見られた。このことから、児童が学んだ表現の型や構成が生きて働く知識となっていなかつたことが分かつた。

そこで、本年度の努力点では、昨年度の実践を継続して行いつつも、読み手への意識をより強くもたせ、言葉の広がり重点を置きたい。これにより、表現力を身に付け、活用することのできる児童に迫っていききたいと考える。

本年度は、物語文や説明文などを読み、それぞれの文章から表現方法や言葉のよさを見付けまとめる活動を行っていく。また、学んだ表現方法や言葉のよさを単元の終わりに「今後、〇〇の言葉を△△の場面で使っていきたい」と振り返りプリントに書かせることで、学びに向かう力を育てていきたい。学年ごとにどのような表現方法や言葉のよさを見つけたかまとめ（以下、「にしななことばの木」）、掲示する活動を1学期、2学期に行うことで、今後の生活でも活用できるようにしていきたい。



3 研究の方法

(1) 実態の把握

活用できる語彙が少なく、文章に出てくる思いや気持ちを表す言葉や特定のもののみとなっている。新しい言葉を知りたいという気持ちは強くもっている。

(2) 「書くこと」力を育てるための手だて

説明文や物語などの単元で、表現方法や言葉のよさを実感できるような授業実践を学年の全員の先生が行う。実践の最後には、学んだことをふりかえりプリントに書かせる。1学期と2学期に、「にしなかことばの木」として学年でまとめ掲示をする。



言葉の世界を広げるための工夫

○ 自分の思いや考えを表現する場の設定

発達段階に応じて、児童に学ばせたい表現の型やいろいろな言葉を見付けさせ、その型や言葉を活用する場を設定する。

→ 型やいろいろな言葉を見付けて、表現する活動を設定することで、言葉のよさを実感させる。

○ もしも発問

「もしも～という言葉がなかったら」と発問し、着目させたい言葉の有用性に気付く場を設定する。

→ もしもこの言葉がなかったらと考えさせることで、着目させたい言葉を焦点化し、その言葉の有用性を考えることができるようにする。

○ フラッシュカード、教室掲示の工夫

実態に応じた学年の努力点のめあてを設定し、教室掲示する。学習時に学ばせたい表現の型やいろいろな言葉をフラッシュカードで提示したり、教室掲示したりする。

→ 様々な言葉にふれることで、児童が表現の型やいろいろな言葉を自然に身に付け、活用することができるようにする。

○ 学習プリントの工夫

学ばせたい表現の型やいろいろな言葉を載せたり、自分で考える部分は空白にしたりするなど児童の力に合った学習プリントを用意する。また、プリントの種類を増やし、使う型や言葉を自分で選ぶことができるようにする。

→ 表現する型やいろいろな言葉を身に付け、文章中で使うことができるよう力を養うことをねらう。

4 家庭・地域との関連

- (1) 学校努力点研究に十分な理解を得るために、保護者会や懇談会、学年だより（2月に発行）などを利用して、取り組みの様子を伝え、協力体制を築くようにする。

※ 学年だより（努力点特集号）について

2/10(水)発行…年間の授業実践・まとめ → A 4 両面

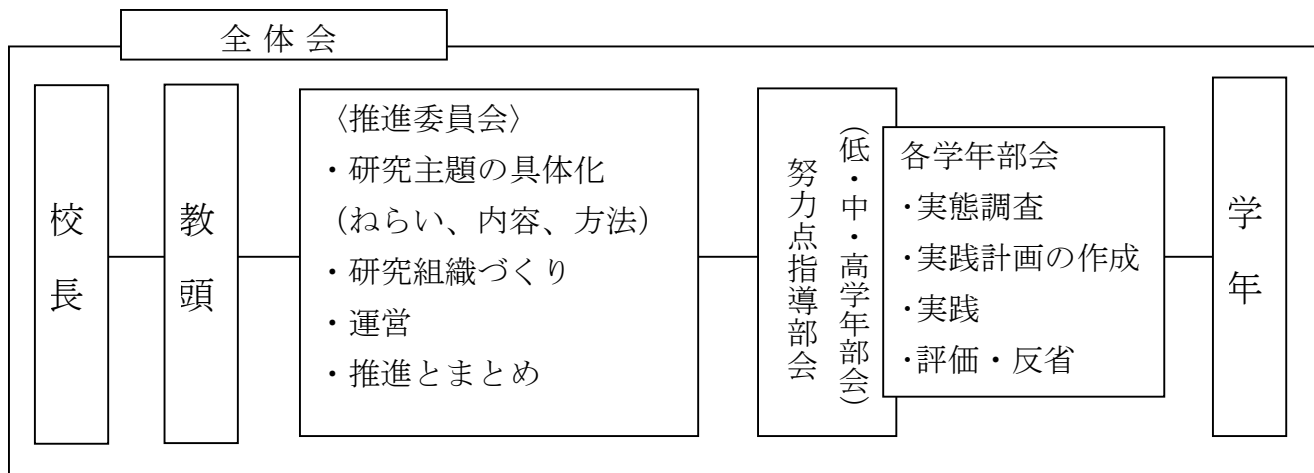
低・中・高学年部会
で1枚にまとめる。

5 努力点研究推進の方法

- (1) 努力点研究を実践していくために、努力点指導部会（低・中・高学年部会）を構成する。
（低…1・2年・あおぞら、中…3・4年、高…5・6年・校務）
- (2) 努力点指導部会を随時開き、研究の推進や実践についての報告及び話し合いを行い、共通理解を図る。
- (3) 各学年部会で二学期終了までに同一単元で授業を一回ずつ行い、授業実践における工夫について研究し、三学期はまとめをする。また、全体公開授業者は一人とし、前期もしくは後期に授業を行う。部員全員で指導方法について事前・事後検討をすることを通して、よりよい指導法についての研さんを深める。
- (4) 実践研究を進める上で、実践内容を継続して記録するとともに、学年部会の実践経過やまとめを全体会で報告し、検討する。

6 努力点研究推進組織図と年間計画

(1) 組織図



(2) 年間計画

月	研究の主な内容
4	<ul style="list-style-type: none">○ 努力点研究主題の検討及び決定、推進のための組織づくり○ 主題・基本的な考えの共通理解○ 児童の実態把握の進め方の検討・実態把握○ 実践内容の検討・具体化（ねらい、手だて、授業者、内容、実践時期の決定）
5	<ul style="list-style-type: none">○ 前期授業実践（事前検討会・事後検討会を含む）
6	<ul style="list-style-type: none">○ 全体公開授業・事後検討会
7	<ul style="list-style-type: none">○ 中間報告会
8	<ul style="list-style-type: none">○ 1学期の実践の結果と考察、課題の検討○ 2学期の実践計画の検討○ 文献研究・研究校の視察
9	<ul style="list-style-type: none">○ 後期授業実践（事前検討会・事後検討会を含む）
10	<ul style="list-style-type: none">○ 後期授業実践（事前検討会・事後検討会を含む）
11	<ul style="list-style-type: none">○ 全体公開授業・事後検討会
12	
1	<ul style="list-style-type: none">○ 実態把握○ 低・中・高の各学年部会における研究のまとめ
2	<ul style="list-style-type: none">○ 学年だより（努力点特集号）の作成○ 努力点最終報告書の作成○ 学年だより（努力点特集号）の発行○ 研究のまとめと発表（最終報告会）
3	<ul style="list-style-type: none">○ 一年間の反省と次年度に向けての方向性の検討

※については、代表授業者が前期に実践を行うか後期に行うかを選択する。